



碧南ロータリークラブ週報

第2495回例会 平成22年3月31日(水)

● 会長 鈴木 並生 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 新美 真司

■ 例会日 毎週水曜日 12:30

■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 岡本明弘・新美雅浩・大澤明敬・西脇博正



2009-2010年度
国際ロータリーのテーマ
THE FUTURE OF ROTARY
IS IN YOUR HANDS

● 斉 唱

ロータリーソング「手に手つないで」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

愛知県立碧南高等学校 教諭 高野修滋氏



鈴木並生会長

会 長 挨拶

4月6日より春の交通安全運動が始まります。県下、市内の交通事故情勢につきましては、色々な所で聞かれると思いますので、本日は自転車の事についてお話させていただきます。

最近では自転車ブームで環境に良い、健康に良い、経済的であると言う事で特に都市部では自転車に乗る人が増えています。昨今の自転車ブームは従来型のママチャリを中心にしたものではなく、ロードバイクやクロスバイクなど速度も出るものが多くなり、自転車は適度なスピードを出し、ある程度クルマの代用となるが必要になってきます。そこで車道と言うもののシェアリングを考え、クルマとどう棲み分けるかが、今後自転車を有効活用する上で必要なことではないでしょうか。

ところが、あらゆる国の中で日本だけ自転車が歩道を走るのがスタンダードと言う奇妙な現象があります。これは1970年と1977年の道交法改正により「自転車は指定歩道に関しては通行可」となってしまったからで、それが長い年月を経つと、極限まで拡大解釈され、今日の「自転車は歩道を走る」と言う誤った常識が生まれるに至った訳です。このことは特に欧州各国の目からは、実に野蛮な風習に映るようで「日本の自転車はクレージー」と言われる所以です。なぜなら歩道というスペースは、歩行者やベビーカー、障害者などいわば弱者の聖域だからです。

又、自転車が歩道を走ることによって「自転車は車輦である」という認識が失われ、自転車はルールもマナーもデタラメな無責任交通手段になってしまいました。現実として、歩道上で起こる自転車対歩行者の事故は、ここ10年で7倍以上にもなっています。自転車事故発生率全体でも、先進国の中ではダントツのワーストワンです。

以上の理由で、曲がり角にある日本の自転車の交通安全対策ですが、このままでは良くないと思ったのか、平成20年6月1日道交法が一部改正され、自転車の新交通ルールが出来ましたが、十分周知されているとは思えません。何れにしても、歩道を区切って自転車レーンと称するものをペンキで塗り分けておしまいといったものです。本来、自転車レーンを作る目的は、歩行者と自転車の分離により増え続ける歩行者対自転車の交通事故を減らすことのはずです。となれば、

自転車レーンはどうしたって車道側に作るべきではないでしょうか？自転車の通行区分を考えると、車道の通行区分を考えるべきで、すなわち車道のシェアリングの再構築を図ることだと思います。

碧南は都市部と違って、歩道を歩く人や自転車も多くありませんが、夕方や夜に歩道を散歩していると、後ろから自転車にベルを鳴らされて慌てて避ける事があり、大きな人身事故を起こさないよう気をつけたいものです。皆様も散歩の時、自転車に跳ねられない様、気を付けて下さい。

ベネファクター授与

岡島 淳一君
杉浦 晴彦君



岡島 淳一君



杉浦 晴彦君

退会の挨拶

阿部 信行君



阿部 信行君

幹事報告

- ・例会変更等はお手元の幹事報告を参照下さい。
- ・4月10日の春の家族会を欠席される方は、幹事報告にご案内している他RCのメイクアップをお願いします。
- ・5月12日の「第2500回記念例会」の案内をメールボックスに入れましたので、4月21日までに欠席のご確認をお願いします。



長田豊治幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数76名(内出席免除者14名の内出席者10名)出席者65名

出席対象者 65/71名

出席率 91.55%

欠席者11名(病欠者1名)

前々回修正出席率 98.59%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

岡島 淳一君 長期欠席をしていましたが、これからは毎週出席致します。どうぞ宜しくお願いします。

縦山 善久君 3月31日、今日をもって社長を交代します。何と申してよいか複雑な気持ちです。

鈴木 並生君 先週は欠席し、原田副会長さんにお世話になりました。

池田 弘孝君 3月26日、ロイヤルカントリー南コース5番ホールで第一打がカップインして生涯3回目のホールインワンでした。

石川 春久君 先週の卓話例会での黒田大先生には頭が下がります。今後の多方面でのボランティアを期待しております。

長田 豊治君 石川春久様には大変お世話になりました。

長田 銃司君 良い事がありました。

新美 真司君 平成22年度消防団・消防予備隊入退式に鈴木会長をはじめ多くのメンバーのご臨席を賜り、誠にありがとうございました。

- 奥田 雪雄君 3月25日(木)メーテレテレビに若奥様メインで家族一同出演させて頂きました。はずかしいやら、うれしいやら！！
その若奥様が3月30日、大学合格の知らせを受けました。家族一同喜んでおります。
- 角谷 信二君 3月28日(日)碧南市消防団・予備隊入退式が無事終わりました。鈴木会長をはじめ会員皆様のご臨席を賜り誠にありがとうございました。
- 清澤 聡之君 先日、鈴木健三先生にお世話になりました。ありがとうございました。
- 山中 寛紀君 年度末で色々バタバタしているとは言え、先週の例会にて大失態！！家に帰って見たらバッジが付いていませんでした。無バッジ出席の罰金も含め、自己への反省しきりです。
- 森田 雅也君 本日の卓話の講師を紹介します。
- 阿部 信行君 大変お世話になりました。
- 服部 弘史君 消防団入退団式において角谷信二団長より、第5分団副分団長に任命して頂きました。

卓 話

「場を高める」愛知県立碧南高等学校 教諭 高野修滋氏

碧南高等学校に勤務して今日で丸10年が経ちます。明日4月1日より西尾高等学校に赴任することとなりました。10年間碧南の地でお世話になりましたことに心より感謝申し上げます。本日お話しさせていただく内容は掃除で「場を高める」実践報告です。

平成9年9月23日、真っ暗だった私の人生に小さな灯火が点りました。それは長い長いトンネルの出口が見えたようでした。小さい頃からわがまま放題に育ち、就職するに当たり楽な仕事を考えていましたが、思うような就職先が見つからず、教師にでもなろうと消極的な気持ちで教職の道を歩み始めました。教師は生徒の指導者であり、上に立つ存在ですが、尊大に、傲慢に、横柄になって高圧的になることも多くありました。生徒との関係は表面的なもので心が通うことはありませんでした。生徒の前で立派なことを言えば言うほど空しくなり、生徒はついてきませんでした。毎日の生活が刹那的になり、目先の楽しみを追い求め、サラリーマン教師になっていきました。家族に対しても、厳しく辛く当たっていて、いつも女房、子ども達はピリピリしていました。

でも、そんな生活が長く続くわけではありません。40を過ぎた頃、健康診断で血小板が少ないと診断され、要精検となりました。その後、月日の経つと共に血液の状態が悪くなっていき、このまま行けば…、「死」をはっきりと意識するようになりました。毎日が真っ暗になり、自暴自棄にもなりました。そんな中、友人である七福醸造の岡本伸治さんから、「トイレ掃除に参加すると感動するよ」と誘われました。掃除は大嫌いで、学校でも掃除を生徒にやらせることばかり考えていました。しかし、朝、目が覚めると「死」が浮かんで一日中離れない状態にあった自分には「感動は光」と思い、参加を決意しました。

初めてのトイレ掃除はとてもショッキングで、その場から逃げ出したい気持ちでした。でも、「目は臆病、しかし手は勇敢」であり、2時間を越える掃除を黙々と取り組みました。終わった後、何とも言えない温かさが体中を包んでいました。その時、一条の明かりが差し込んでいるのが感じられました。

「そのときの出逢いが」と相田みつをさんの言葉にあります。平成9年11月23日、当時イエ



ローハット社長、鍵山秀三郎さんと出会い、私の人生は大きく変わっていくこととなりました。そのとき、鍵山社長さんから「善友は助け合って成長し、悪友は誘い合って墮落する」と教えられました。振り返ってみれば、迷惑ばかりをかけてきた人生でした。それを少しでも相殺するためにも、掃除道の「温かき心は万能なり」を広めていこうと思いました。

教育現場で「掃除道」を広めていくことは決して楽なことではありません。きれいにすること、お掃除は良いとわかっている、具体的なことになると「それは宗教じゃないか」「心がきれいになるって、どういうことか？」と反対意見が圧倒的でした。逆風の中を生徒と共に始めましたが、参加してくれる生徒はすぐには見つからず、授業の中で何度も何度も誘いました。体験した生徒が次の生徒を誘ってくれたり、リピーターの数が増えて、逆風を感じなくなりました。

碧南高校での取り組みはボランティア部のトイレ美化活動を中心とし、学年経営、クラス経営の柱として教室環境整備を重点としました。具体的には、授業後の教室は「入学式で生徒を迎え入れた状態にする」を合い言葉にしました。特に、黒板はいつも鏡のようにきれいにしておくことが大事で、汚れていけば生徒の気持ちは落ち着かなくなります。これは、人の気持ちはいつも目にするものに似るという考え方です。この考え方を大切に、実践を重ねていくことで、生徒一人ひとりが持っている本来の力が発揮されるようになります。欠席、遅刻、早退の数が減り、成績が上がったり、我慢する力がつき、ものを大切に、人を大切にできるようになります。また、高校時代は多感で心が大きく揺れる時ですが、生き方に自信が出て、目力が感じられるようになります。

生き生きとする生徒の姿を見て、この実践を全国の教師仲間、学校に広めていきたいと考え、平成13年8月に「便教会（教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会）」を立ち上げました。「便教会」の主旨は率先垂範で、「ただ身を低くして実践あるのみ」です。次世代の子ども達に何を伝えていかなければならないのか？という問いに対して、教師はどう答えるべきかを考えました。人としての生き方（考え、行動）を教えなければなりません。その生き方の基本は、誰もができる当たり前のことが当たり前できるようにすることです。私が特に大事にしたことは、昭和の教育哲学者である森信三先生の「挨拶、時間、掃除」で、どれもが具体的に取り組めることでした。教えを最も効果的に伝えるためには、具体的な実践をすることです。抽象論で漠然としていては染み込んでいきません。教師が袴を着て、立派なことを板書しても、また手法や技術ばかりを考えていても生徒はついてきません。教師の姿勢で示すこと、そのためには教師自身が学び、気づきを深めていかなければなりません。上に立つ者ほど下に下りなければならないということで、「晦に処る者は能く顕を見、顕に拠る者は晦を見ず（暗いところにいる者は、明るいところをよく見ることができ、明るいところにいる者は暗いところを見ることはできない）」の教えがあります。トイレ掃除で下座行の精神を養い、生徒と向き合っていく中で教師の資質が高められます。あきらめない、継続していく素晴らしさを生徒から学びます。この「場を高める」継続は、生徒一人ひとりの力を発揮させるばかりでなく、教師の力量が高まっていくと感じています。教えることは学ぶこと、その根本はトイレ掃除にあり。『トイレ掃除は気づきの宝庫です』。ご静聴ありがとうございました。

次回例会案内

平成22年4月10日（土）春の家族会「松竹新喜劇 陽春公演」御園座

平成22年4月14日（水）春の家族会の振替休会

平成22年4月21日（水）クラブフォーラム 地区協議会の報告